

観光と長崎の未来

プラネタリーヘルス

長崎大学の挑戦

8

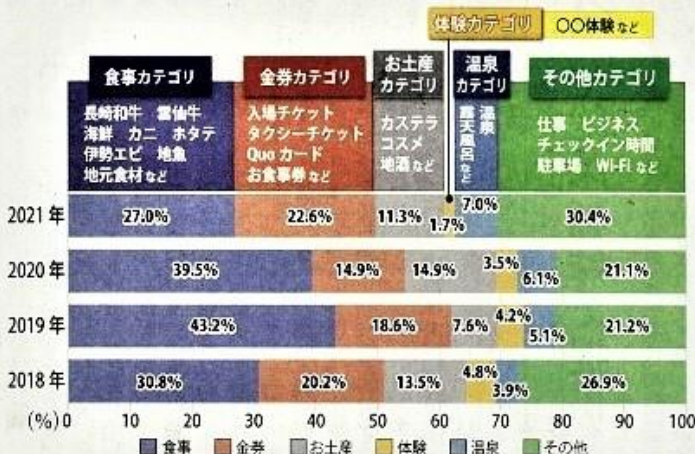
長崎県には、出島や軍艦島、潜伏キリシタン関連遺跡など観光資源が豊富にあります。観光客を引きつける要因にはなりますが、これを見学してもらっただけでは、長崎県は潤いません。そのため、観光客にさまざまな気づきや驚き、体験、滞在する場を提供することで、新規の観光客やリピーターの獲得につなげていく必要があります。今回は、滞在する場として「宿泊」に注目します。



一藤裕准教授

情報データ科学部 准教授

いちふじ ゆう 一藤 裕



宿泊プランに含まれる単語のカテゴリと年代別の出現比率

イトの情報です。予約サイトでは、人数や日付を入力すると、空きがある宿泊施設や、その施設が提供する宿泊プランが表示されます。これらの情報を日々定期的に収集しておき、特殊な加工をすることによって、どのようなプランが売れたのか、売れ残ったのかということが推測できるようになります。

この加工データを使って統計的な手法を用い、宿泊プランの完売予測モデルを構築し、その要因分析を行います。その結果、それぞれの宿泊プランがどれだけ完売しやすいかを相対的に評価することが可能になります。

そして、宿泊プランに含まれる単語に注目すれば、何が観光客に選ばれやすいのかということについて傾向をつかむことができます。今回、モデル構築に使ったデータは、2018〜21年それぞれの10月1日から12月31日までのデータです。新型コロナウイルス感染症による影響が出る前、人の行き来が制限されたとき、制限が緩和されたときで違いがあるかについて見てみました。

図に、各年の完売しやすいプラン上位100に含まれる用語をカテゴリ化してまとめました。実は、各年で大きな違いはなく、コロナによる制限があっても観光客や利用客の嗜好はあまり変化していないことがわかりました。

そのなかで食事に目を向けますと、長崎和牛、雲仙牛、海鮮、地魚、地元食材など、県産の食材の単語に関心が集まり、売りになっていました。これは、地産地消が観光客を引きつける上で重要な考え方であることを事業者側が理解し、観光客が反応していることを示しています。

地産地消は、県内の異業種間のつながりを強化するだけでなく、輸送コストや品質維持コスト、それに伴う地球への負荷を減らすことにつながるため、プラネタリーヘルスを考える上でも重要です。

観光客に好まれる滞在の場として宿泊を取り上げましたが、県内で生産されるもの、特産物などがデータから有効であることがわかりました。この結果を踏まえて、他県からの輸送コストなどによる地球への負荷を減らすためにも、新たな宿泊プランを作成する際には、地元のものを生かすことを第一に考えていくことが必要です。

(原則毎月第3木曜日付、地方版に掲載します)



回覧に関するサイト